

2009 年春・昆明交流報告書

2009 年 4 月 8 日

湘南日本中国友好協会理事長 春名康夫

- ◆ 日 程 ; 2009 年 3 月 21 日～30 日(1 名鈴木三枝子さんは3月18日に先行して出発)
- ◆ 行き先 ; 中国雲南省昆明市を中心に怒江、紅河方面
- ◆ 行 事 ;
 - ・ 日本文化週開幕式・講演会・映画会
 - ・ 彩雲基金・日本語スピーチコンテスト
 - ・ 日中文化交流会(生花・お茶会・着物着付け・似顔絵・竹細工展示・自由交流)
- ◆ 参加者 ; 9 名(湘南日中会員と一般市民)

‘09 春・昆明交流は3月21日の雲南大学外国語学院日本文化週から始まり29日の文化交流まで多彩に実施しました。鈴木三枝子副理事長は3月18日に先行して昆明に入り打合せと準備、日本文化週開幕式等に参加、他の8名は3月21日に出発しました。

翌日からの3月22日～25日の怒江旅行は全員参加。2007年7月来藤の怒江州民族歌舞団と民族文化代表団の方々の熱烈な歓迎を受けて再会を喜び合いました。次の26日～28日午前までは紅河ハニ族村の棚田旅行です。一年で最も美しい棚田の風景とハニ族の娘さん達のモデルに満足の旅行でした。

今回の最大のイベント彩雲基金・日本語スピーチコンテストは28日午後を開催しました。雲南大学の発表会場には300名を越える聴衆が詰め掛け熱気に溢れていました。日本に招待する優勝者と準優勝者を決定しましたが、3位以下との実力はあまり差はなくレベルの高い大会でした。

最後に29日に友誼館で日中文化交流会を開催しました。前日の雲南大学での熱気がそのまま引き継がれ友誼館の1階と2階すべて使って実施しましたがどこも満杯でした。

リス族の伝統である「同心酒」で酔っ払ったり、食べ過ぎたり、悪路で車に酔ったり、転がったりした方はありましたが、なんとか無事30日に帰国いたしました。参加いただいた方、ご支援いただいた方々、湘南日中会員の皆様のご支援に心より御礼を申し上げます。



【3月21日(土)】 成田出発—広州経由—昆明着

自宅出発(4:45)—成田着(7:40)—総勢8名。鈴木三枝子副理事長は日本文化週開幕式等に参加のため3月18日に先行出発。宅急便を受け取り、チェックイン。浜野さんより携帯に連絡あり。予定のバスに乗り遅れ、8時45分頃到着とのこと。JAL係員に事情を説明し浜野さんが到着したら優先手続きを依頼。9時チェックイン締め切りには間に合い—安心。9時45分予定通り離陸。一路広州へ向う。350名くらいの定員の飛行機に乗客は30名程度。連休なのに不思議である。お陰でゆっくりと横になって休むことが出来た。

広州で昼食。しばらく時間をもてあまし、昆明へ向う。昆明には予定通り20時30分に到着。伍さんと劉さんの出迎えを受け茶花賓館へ入る。鈴木三枝子さんの出迎えでホテルチェックイン。明日の出発等打ち合わせて部屋に入る。

怒江溪谷・リス族・怒族・チベット族を訪ねて

【3月22日(日)】 昆明—保山—福貢

怒江旅行は9名全員と昆明の画家胡先生を加えて伍さんの案内でにぎやかに出発。5:30 モーニングコール、6:45 茶花賓館出発、7:45 昆明空港出発、8:30 保山着。保山市内で朝食をとりマイクロバスで怒江溪谷を目指す。保山から現地ガイドの穆玲さんが同行。怒江溪谷は瀘水から300kmにわたって続く。怒江の兩岸の平地はごく僅かで険しい山がそそり立つ。

18:30 ようやく福貢に到着。ホテルのロビーで潘文海さんの出迎え。潘さんは2007年7月のアジア民族舞踊交流会でお会いした方でした。福貢は潘さんと上司の和さんの故郷とのこと、今夜の歓迎会と24日瀘水での歓迎会の招待状を持参。わざわざ瀘水から出向いてきたとのこと、感激する。歓迎会は福貢の県政府の方々の出迎えを受け、リス族、怒族の民族歌舞で歓迎される。日本からも「さくらさくら」の歌を披露する。きわめつけは「同心酒」の歓迎で飲めない方もむりやり飲まされて酔っ払った方もあります。怒江旅行初日早々から大変な予感がする。



福貢でリス族、
怒族の民族歌舞
で大歓迎



【3月23日(月)】 福貢—石月亮—怒江第一湾—チベット村—丙中洛

福貢からはますます谷が険しくなり見所も多くなります。村落は山の中腹から上に点在しており、急斜面の農作業は厳しいものがあります。政府は平地で暮らすよう河辺に家を建てましたが定着はしなかったようです。下に下りてくると病気になる人もあり、また山に戻って行くという。夏は下のほうは猛烈に暑いそうで山の上のほうは暮らしやすいのではと思う。

丙中洛に到着し昼食後チベット村へ向う。丙中洛では菊ちゃんと楊さん一行に合流。昆明から車で来ている。ゆっくり話すまもなくこれから昆明へ戻るという。車では大変な距離で今から帰らないと昆明での予定に間に合わないという。チベット村へ一緒にと相談はしたが普通の車では入れない。私たちもトラックをチャーターしマイクロバスから乗り換える。大きな石も点在する山道を走ること1時間でチベット村に到着。2500m から3000m の高地で付近の山は雪で白く輝いていた。新緑と花に包まれたのどかな山村でした。



怒江第一湾



怒江石月亮



チベット村で歓迎

【3月24日(火)】丙中洛-瀘水

6:30 モーニングコール、7:30 朝食で早急に出発。怒江渓谷をひたすら瀘水に向けて戻る。途中怒江第一湾を見学、また、「過溜索」という谷を渡る村人たちを見学。怒江渓谷には大きな橋はごく僅かで吊橋かワイヤーを渡した「溜索」が怒江を渡る手段になっている。バックの中にロープと滑車を持っておりロープを輪にしておしりを乗せ滑車をワイヤーに取り付ける簡単なものです。子供は大人が抱っこして一緒に滑る。シャーという音とともにものすごいスピードで怒江を渡る。みんな平気で日常生活になっている。決して観光イベントではない。怒江のいたるところで見かけることが出来た。



過溜索-2人で



過溜索



怒江渓谷見学

瀘水に到着しホテルに荷物を下ろして 18:00 怒江州人民对外友好協会名誉会長の表敬訪問に向う。理事の和玉花さんが出迎え、日本でお会いした人である。他にも日本に来られた方の顔が見える。再会を喜び合い段名誉会長の歓迎の挨拶を受ける。今回は旅行団で公式の訪問ではない旨説明して表敬訪問をした。怒江州としては藤沢市の昆明での活動を高く評価しており、怒江州とも昆明同様に交流を希望される。怒江州の特徴は水が多く発電に向いている、怒江渓谷の美しさ、12の少数民族が生活しており、観光、文化面(スケッチ、写真)での交流が出来ると説明あり。藤沢市のパンフレットを手渡し説明。5年毎の市民訪問団の旅行は2年後の11月にあるので再度怒江を訪問したい旨伝えた。



表敬訪問後の宴会

19:00 から歓迎宴会、20:30 からは怒江州民族歌舞団で日中文化交流の催しがあった。段先生は書道家でもあり書を書かれる。日本からは大嶋さんが書を書いて交歓した。絵画では私と藤井さんが描き、中国の方の絵と交換した。最後に鈴木富与子さんと三上さんの生花の実演をした。怒江州民族歌舞団との交流が始まり素晴らしい舞踊を見せていただく。日本も何かをという事で「炭坑節」の踊りと「さくらさくら」の合唱を披露した。最後は怒江州民族歌舞団の方々と一緒になっての踊りが何回も続いた。2時間の競演にみんなくたくたで 22:30、やっとホテルに引き上げた。



文化交流一段書記の書



怒江州民族歌舞団



来藤の団員と記念撮影

【3月25日(水)】瀘水―保山―昆明帰着

7:45 出発、朝食は車中で取る。とにかく 12:00 までに保山空港にたどり着く必要があります。もと来たガタガタ道を4時間ひた走り、保山へ戻ってきた。なんとか昼食にありつき保山空港へギリギリに到着。直ちに離陸し 13:30 昆明帰着。14:30 茶花賓館へチェックインし自由行動とした。夕食は菊ちゃん、楊さんを誘ってゆっくりと過ごす事が出来た。

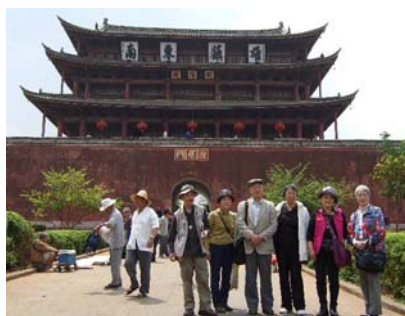
怒江旅行反省【鈴木三枝子】

- さすが観光客に合わない場所だけあって、素晴らしい眺めであった。
 - 二回の歓迎会は心のこもった手厚いもてなしで感激した。
 - 予定にはなかった日中文化交流ができ、本当の意味での民間交流の素晴らしさを感じた。
 - 一日の移動距離が長く、悪路で、高齢者には向かない場所である。
 - 30 周年で再度訪問するとすれば、旅程の厳しさを、具体的に事前に知らせるべきである。
- 張菊萍たち三人がせっかく車で追ってきたのに、たった 30 分程度で別れなくてはならなかったのは、申し訳なかつた。

紅河ハニ族村の棚田を訪ねて

【3月26日(木)】昆明―玉溪―建水―紅河

後半の旅行は鈴木三枝子さん鈴木富与子さん、大内さんの3名を昆明に残して6名と胡さん、伍さんの8名で出発。怒江と違って昆明―玉溪―建水は高速道路で快調に進む。建水に到着し昼食後古い町を見学、一路紅河へ向う。紅河では現地ガイドとして写真家の李先生が案内をしてくれるそうで出迎えを受ける。李先生ともども夕食。新しい同心大酒店へ泊まる。



建水―朝陽楼



紅河―夕食後



ハニ族の娘さん達

【3月27日(金)】終日紅河棚田、ハニ族村見学

7:30 李先生の案内で出発。ハニ族の娘さん女子高校生二人も同行しハニ族の民族衣装でモデルをしてくれることになった。可愛いハニ族の娘さんにみんな大喜び。李先生お気に入りの棚田3箇所とハニ族村を案内いただく。怒江溪谷と同じようなガタガタ道で観光客はまったく行かない厳しい山道を走る。棚田はこの季節が最も美しく、観光化されている棚田をイメージしていたがここは違っていた。新緑と棚田の水の美しさ、谷底から湧いてくる雲が幻想的で素晴らしい景観であった。ハニ族の娘さんをモデルに思う存分棚田を満喫した。

夕食には紅河県副県長と観光局の方が同席、藤沢市のパンフレットでPRをした。当地の白酒が美味しくお土産に頂戴した。



紅河棚田の景観



光り輝く棚田

彩雲基金・日本語スピーチコンテスト

【3月28日(土)】紅河—昆明帰着—雲南大学

早朝5:00 モーニングコール、6:00 ホテルを出発しひたすら昆明を目指す。途中個陽で簡単な朝食。それでも昆明の帰着は日本語スピーチコンテストの始まる 14:00 ぎりぎりの 13:30 雲南大学に到着した。昼食は車中、スーツの着替えも車中で行い日本語スピーチコンテストに備える。

雲南大学の会場にはすでにいっぱいの聴衆が集まり、日本語スピーチコンテストの開始を待っている状態でした。審査員の先生方と挨拶を交わし、簡単な打合せをして日本語スピーチコンテストが始まりました。発表は各大学で選ばれた16名。審査員は湘南日中の代表を含めて6名。命題のスピーチテーマは「私と日本」。命題スピーチは3分間。いずれも十分準備されており、発音、内容等大きな差は無い。即興スピーチは命題スピーチの後審査員会議で相談し、3つ用意した。発表者はクジ引きでテーマを選び15分間考えて2分間で発表する。即興スピーチで日本語の実力差がはっきりしてくる。画家の藤井さんは命題スピーチと即興スピーチの5分間に発表者の似顔絵を描き、表彰式で手渡す。日本で描いた富士山の絵も発表者全員にさしあげ喜ばれた。

成績発表、表彰式は悲喜こももで、優勝の高さん、準優勝の宋さんは日本行きを獲得し大喜び。。ほんの僅かの差で3位の史さんは涙で一杯でした。それでも最後は発表者を囲んで笑顔で記念写真を撮りました。下級生は来年またチャレンジしてほしい。コンテストは 17:30 に終了し、昆明市外弁の許副主任のご招待による夕食宴会に出席する。厳さんの後任になられたそうです。



日本語スピーチコンテスト反省【鈴木三枝子】

- 350人以上動員できたことは、予想外の数だった。
- 当日は旅行団の方たちが朝5時に起き、コンテストに全員観戦されたことに感謝する。
- 場所柄日中戦争の影がまだ色濃く残っていることに複雑な気持ちがあった。
- 日本語学習者皆が日本に強くあこがれているのを感じた。
- 地理的に不利な昆明であるが、学生のレベルは大都市と比べて何ら遜色ない。
私が昆明にいた時より確実にレベルアップしてきた。
- 国際交流基金の支援金が得られるよう手配したが、最後の詰めの甘さで実現できなかったことは、私の落ち度で、反省している。
- 即興スピーチのテーマを携帯電話のメールで出場者に教えていた日本人がいたとの情報があった。次回は不正が行われる余地がないよう、実施面で改良する。
- 入賞者三人の即興スピーチのタイトルが、偶然『日本企業に就職したら』であり、(審査員も企業代表者が多かったので、)公平ではないのではとの意見もあった。私個人の意見は、これは偶然の一致で、上位三人のレベルは特に高かったので、当然の結果と考えるが、次回は審査員として、国際交流基金日本文化センターの日本語指導者研修員の方をお招きして、さらに公平な審査が行われるよう改良したい。
- 審査結果に関しては主催者が全責任を持っているので、審査員や出場者に個人的に意見を述べるのは慎んでいただきたい。ご意見のある方は、事務局あてにメールで連絡を。
- 第一回にしては大成功で、大変満足している。

昆明文化交流会

【3月29日(日)】 藤沢・昆明友誼館

10:00 友誼館集合で準備を始め、早目の昼食をとって文化交流会を待った。友誼館1階は生花の実演会場と日本語スピーチコンテストのスポンサーによるPRコーナー。2階はお茶席と着物着付け・似顔絵と日本から持参したお菓子を並べての自由交流コーナーを設けた。開始の14:00を待たずに昨日の日本語スピーチコンテストに来ていた学生を中心に多くの人々が来場される。生花会場は予定の30名をはるかに超える60名が参加。お茶席も100名の予定を超えて130名が参加された。着物着付けは23名が日本の浴衣を着て似顔絵を描き、写真に収めていました。自由交流コーナーは子ども達も多く参加し楽しんでいました。どの会場も超満員で今までの文化交流で最もにぎやかな交流会となりました。

友誼館の後片付けを終え、最後の打ち上げ宴会です。18:00から20:30頃まで茶花賓館の近くのレストランに30数名のお世話になった方々や、古くからの友達をご招待して答礼宴会を催しました。今回の交流の成果を祝し、盛り上がった打ち上げになりました。茶花賓館に戻り旅行会社の伍さんと会計の支払いを済ませ、成功の祝宴を挙げました。伍さんが帰り、シャワーを浴びてほっとする。ベッドにバツタリとそのまま爆睡。ふとんも被らず寒さで気が着いたら午前1時過ぎ。荷物の片づけもそのままに布団にもぐった。



お茶会交流



着物の着付け



似顔絵



生花交流



生花実演の先生



自由交流コーナー

文化交流【鈴木三枝子】

- 生花 60 人、お茶 130 人、着付け 23 人、その他整理券のない人を含めると 250 人～300 人動員でき、これもうれしい誤算であった。
- 昆明入りしてから参加希望団体が出た。
竹細工展示・邱公館コーヒー展示
- この人数は友誼館ではマキシマムで、これ以上集まるとなかなか統制を取るのが難しい。
- 雲南大学に留学している日本人留学生の協力が大きかった。
- これだけの人数が集まると、仕切る側の人数が足りない。
- スピーチコンテストと文化交流の二つの行事を私一人でアレンジするのは、至難の業。
次回は文化交流担当者を設けてほしい。

21 日の雲南大学外国語学院日本文化週間【鈴木三枝子】

場所：雲南大学科学館報告庁

時間：9:00～17:00

動員人数：350 人以上

講演①「日系企業の社会貢献活動の調査報告」

日本国際交流基金北京文化センター 藤田安彦主任

②「日系企業の求める人材」

雲南日本商工会・邱公館食品（雲南）株式会社

村田考市副総経理

③学生との質疑応答

日本映画上映会

日本文化パネル展（数日間続けて展示）



【3月30日(月)】昆明—広州—成田帰国

6:00 モーニングコール。6:50 茶花賓館出発。8:20 昆明発、広州着 10:00。
ここで少し時間があるのでゆっくり昼食をとりながら反省会をする。
15:10 広州発、成田に 20:00 無事帰国しました。みなさん本当にご苦労様
でした。来年の日本語スピーチコンテストも宜しくお願いいたします。
また、夏休みには優勝の高さん、準優勝の宋さんが日本にやってきます。その
時にもあたたかく迎えてください。
日本語スピーチコンテストがずっと続き、多くの若者が日本語を勉強し日本と
中国の架け橋になってくれることを念じつつ今回のご報告と致します。



団長 春名康夫